

複式第1・2学年 算数科学習指導案

- 1 単元名「のこりはいくつ ちがいは いくつ」(学校図書1年上) 12時間
「大きい数のたし算とひき算」(学校図書2年上) 11時間

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第1学年)

これまでに子供たちは、数の大小、順序について学習し、減法の素地が培われてきている。また、数の合成や分解を通して数の構成に着目することについても学習してきている。

本単元では、減法の計算についてその意味を理解すること、計算のしかたを考えて説明できるようにすること、確実に計算できるようにすること、生活や学習の中で活用できるようになることをねらいとしている。「求残」「求補」「求差」などの学習においては、具体物を用いたり、言葉や図、式を用いたりして表現する数学的活動を取り入れることで、意味や計算の仕方の理解を深め、生活や学習に活用できるようにすることをねらいとしている。

ここでの学習は、2学期の「ひき算」にて、繰り下がりのある減法の学習に発展していく。

(第2学年)

これまでに子供たちは、(2位数)±(2位数)の筆算のよさに気付き、繰り上がりや繰り下がりが1回の筆算のしかたについて学習してきている。筆算については、縦に位を揃えて書く、下の位から位ごとに計算する、順に上の位に進めるということを学習してきている。

本単元では、筆算の原理や手順を生かし、十の位を繰り上げる加法、繰り下げる減法について学習することになる。加法や減法を用いる場面の理解をさらに深め、既習の筆算形式を想起できるようにし、十進位取り記数法と関連付けて考えるようにし、筆算のしかたを理解できるようにすることをねらいとしている。

ここでの学習は、範囲が3位数、4位数の加法・減法の計算に広がる第3学年の学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

本単元では、数の合成や分解が基礎・基本となり、学習してきたことを使い、減法について考えていくことになる。10の合成・分解は、十進法の学習で欠かせないものである。今後の学習をよりよく理解するために、ブロックやおはじき等で十分に操作する時間を確保したい。また、具体的な場面における事実に基づき「操作、図、言葉、式」の各過程を対応できるようにして、減法について理解を深め、減法概念を形成させていきたい。

本単元では、繰り上がりや繰り下がりですまじきやすくなることが予想される。そのため、筆算の形式だけの指導にならないように、数の仕組みと筆算形式をつないで、ブロック等を用いて筆算のしかたを十分に理解できるようにしたい。また、筆算の手順と図の操作を関連付けることで、筆算の仕組みの理解へとつなげるようにしたい。さらに、ペアで筆算の手順を整理しながら自分の言葉で説明する機会を保障するよう留意したい。

(3) 子供の実態 (調査人数 1年2人, 2年2人 質問紙法, 学力調査)

	第1学年		第2学年	
知識・技能	1 たし算の計算問題 20問 ※ 「ひきざん」は6月中旬からの学習予定であるため、実態は指導案作成時の現時点では調査することが難しい。		1 (2位数) + (1・2位数) たし算の筆算 10問 2 (2位数) - (1・2位数) ひき算の筆算 10問	
	1年A児	1年B児	2年C児	2年D児
	1 全問正解	1 全問正解	1 全問正解 2 全問正解	1 繰り上がり忘れ1問 2 繰り下がり忘れ1問
思考力・判断力・表現力	1 たし算の文章問題 2 5 + 3の文章問題作り 3 ブロックの動きに合わせて問題作り □□ ←□□□ (増加) □□□→ ←□□□ (合併)		1 (2位数) + (1・2位数) たし算の文章問題 2問 2 (2位数) - (1・2位数) ひき算の文章問題 2問	
	1年A児	1年B児	2年C児	2年D児
	1 全問正解 2 穴埋め式正解 記述式正解	1 全問正解 2 穴埋め式正解 記述式は数が1つ抜けていた	1 全問正解 2 全問正解	1 全問正解 2 被除数が除数より小さく立式したため1問不正解
主体的に学習に取り組む態度	1 算数は好きですか。 2 算数科で楽しいときはどんなときですか。 3 (国語科・算数科で) 1年生と2年生と一緒に学習してよかったことは何ですか。 4 ガイド学習でよいことは何ですか。 5 ガイド学習で困ることは何ですか。 6 友達の考えを知ることは大切だと思いますか。またその理由は何ですか。 7 友達の考えを知るときに気を付けていることは何ですか。 8 自分の考えを伝えるときに気を付けていることは何ですか。 9 友達の考えを聞いて自分の考えが変わったことがありますか。 10 振り返りではどんなことを発表していますか。			
	1年A児	1年B児	2年C児	2年D児
1	◎	◎	◎	○
2	○ 計算 ○ ブロック ○ タブレット・プリント学習, ドリルパーク	○ 計算 ○ タブレット・プリント学習, ドリルパークで答えが合っていたとき	○ 計算 ○ ドリル学習 ○ タブレット学習	○ できるようになったとき ○ ブロックで筆算を確認するとき ○ 自分の考えを順序の言葉を使って書くとき
3	○ 教えてもらえること	○ 教えてもらえること	○ 1年生に教えること	○ 昨年2年生がしていたのを聞いて今年知っていたこと
4	○ ガイド役で「読みましょう」などと言うのが好き	○ ガイド役が好き	○ 自分たちで進められる	○ 2人で少しずつ進められるガイド役が好き
5	○ 先生が2年生の所に行っているときに質問したいとき	○ 先生が2年生に行っているとき話しかけられないこと	○ 話合いのとき進め方が分からないこと ○ 質問したいときに先生がいないこと	○ 問題が難しくて分からないとき ○ 話が進まないときに先生がいないこと
6	(1年生の現時点では質問内容が難しい)		○ 自分が間違っているときに友達の考えを書き加えられる	○ 友達の考えを知ると次に教えてもらったことを思い出せる
7	○ 自分と同じかどうか	○ 答えが合っているか	○ 「聞き方名人」	○ うなづく ○ 質問をする
8	○ 声の大きさ ○ 相手の方を向くこと	○ 名前を呼ばれてから返事をして話すこと	○ ゆっくり話すこと	○ 相手が分かりやすいように伝えること
9	(1年生の現時点では質問内容が難しい)		○ 自分が間違えていたとき ○ 自分たちでめあてを考えるとき	○ 繰り下がり方を忘れていたときに教えてもらったとき
10	○ 分かったことを話すことが好き	○ 分かったこと	○ 分かったこと ○ 間違えたこと	○ できるようになったことを友達に伝えて聞いてほしい

1年生の児童は、入学して間もないため学習経験が浅く、話をするときや聞かされるときの態度、椅子に座っているときの姿勢等の学習規律や、平仮名の促音や濁音等に気を付けて読み書きをすること、簡単な文を作れることを学習しているところである。特にA児は、文字を拾い読みしているため算数の問題を教師と一緒にゆっくりと確認している。2人とも算数の学習への意欲が高く、ドリルパークやプリントで計算をすることは好きであるが、文章問題となると、問題文を読まずに解答したり、正しく読めなかったりしている。また、集団になると話を正しく聞くことが難しく、指示したこととは別のことをしていたり、一度で理解できる指示が1つか2つであったりするため、再度教師が1対1でじっくりと話をしたり、指示を出すときは回数を分けて伝えるようにしている。したがって、現段階では複式学習の時間において1年生に直接指導を行っていることが多い。複式学級におけるガイド学習や振り返りの仕方については、2年生の学習の様子を見て、少しずつイメージをもち、取り組もうとしているところである。加法の学習では、問題文の演算決定となる言葉に印を付けたり、式を立てる前にブロックを操作しながら問題場面の話をしたりし、言葉とブロックや図、式をつなげて考えることができてきている。

2年生の児童は、直接指導の時間が短い中、自分たちで進めようとしたり、話合いの時間には比較的 understanding が高いC児を中心に、自分の考えを強固・付加・修正し、友達と学び合うよさを感じたりすることを経験しているようである。しかし、D児は自力解決で一端つまづいてしまうと混乱してしまい、普段解くことができる問題も難しくなってしまう様子が見られる。その際、ガイド役のC児も戸惑ってしまい、話合いの時に学習を進められない様子が見られる。 $(2\text{位数}) + (1 \cdot 2\text{位数})$ の加法や減法の筆算では、2人とも位を揃えて計算することはできていたが、D児は繰り上がりや繰り下がりがうまくいかないときもあったため、筆算のしかたとブロック操作を関連付けて修正することを繰り返し取り組んでいる。

(4) 指導上の留意点

複式で異学年一緒に学習することについて、各学年がそのよさを実感している。そこで、できる限り、両学年同時に振り返りを行うことで、下学年が上学年の発表の仕方を学び、学習することの楽しさを表現できるようにしたい。特に、単元の後半には両学年とも減法の問題を学習するため、学習内容の系統性も感じることができるようにし、複式学級のよさを生かすようにしたい。

また、両学年とも間接指導の時に自分たちで進めることについて困っているため、学習の流れの見通しがもつ時間を設定する。その際は、両学年ともガイド学習の経験が浅いため、「ガイドの手引き」や「ガイドプレート」を活用させる。また、学習経験自体が浅い1年生が安心して学習を進められるように1年生の直接指導に重点を置くことにする。

自力解決を図る場面では、個人差が出ることが予想されるため、既習事項の掲示物やヒントカード、個に応じたワークシート等を準備し、両学年に対応できる時間を設ける。

1年生は、加法と同様に減法でも、問題文の演算決定となる言葉に印を付けたり、式を立てる前にブロックを操作しながら問題場面の話をしたりし、言葉とブロックや図、式の各過程を対応させながら減法についての理解を深めていきたい。その際、問題を丁寧に読む指導も合わせて行う。

2年生は、筆算の形式だけの指導にならないように、ブロックや図の操作を通して筆算のしかたを十分に理解させたり、筆算の手順について順序を表す言葉を用いながら、お互いに説明する機会を多く設けたりする。また、本校は今年度からデジタル教科書が導入されたため、間接指導の際に児童が活用できるようにし、少しでも自分たちで学習が進められるようにしたい。

3 単元目標

【知識・技能】 - 減法の意味や、減法が用いられる場面について理解することができる。 - 減法の記号や等号を知り、それらを用いた式で具体的場面を表したり、式を読み取ったりすることができる。 10 以下の数についての減法の計算ができる。 【思考・判断・表現】 - 文や絵から、減法の場面かどうかを判断したり、減法の式を具体的な場面に結びつけたりして、減法の意味を考える力を身に付ける。 - 様々な減法の場面を式に表し、数感覚を豊かにすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 - 式に表すことや減法の考えを用いることのよさや楽しさを感じながら学ぼうとすることができる。 - 減法を日常生活の中で生かそうとすることができる。	【知識・技能】 - 既習をもとにして（2 位数）＋（2 位数）の加法と、その逆の減法や、簡単な 3 位数の加法、減法などで、位ごとに計算する筆算のしかたとその意味を理解し、繰り上がり・繰り下がりなしや、繰り上がり・繰り下がりありの計算が筆算でできる。 【思考・判断・表現】 - 既習をもとにして、数が大きくなっても加法や減法の筆算は位ごとに計算を繰り返せばよいことに気付き、既習事項をもとに図や式などを用いて表現し、計算のしかたを考える力を身に付ける。 【主体的に学習に取り組む態度】 2, 3 位数の加減の筆算のしかたに進んで関わり、ブロック操作と対応させて筆算のしかたを考えようとしたり、加法や減法のきまりを活用したりしようとするなど数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気付き生活や学習に活用しようすることができる。
---	--

4 単元の評価規準

第 1 学年	観点	第 2 学年
減法が用いられる場面として求残や求差の場面があることを理解し、説明することができたり、10 以下の数についての減法の計算が正しくできたりする。また、いろいろな減法の場面を式に表したり、具体的な場面と結び付けて式を読み取ったりしている。	知識・技能	（2 位数）＋（2 位数）の加法とその逆の減法や、簡単な 3 位数の加法、減法などの計算を正確に筆算している。また、（2 位数）＋（2 位数）の加法とその逆の減法や、簡単な 3 位数の加法、減法のしかたや、減法と加法は互いに逆の関係になっていることを理解している。
身近な事象に対して数量の関係を捉え減法が適用できる対象かどうかを判断し、それを減法の意味をもとに説明している。	思考・判断・表現	ブロックなどの具体物と結びつけながら、位ごとに計算する意味を考え、図や式などを用いて表現し、計算のしかたや計算の順序やそのよさについて考えている。
式に表すことや減法の考えを用いることのよさや楽しさに気付き、様々な減法の場面を進んで式に表そうとしている。また、日常生活の中から減法が用いられる問題場面を見つけ、学んだことを生かして解決しようとしている。	主体的に学習に取り組む態度	十進位取り記数法の仕組みを利用したり、既習の計算を活用したりして、加法や減法のよりよい計算のしかたを考えようとしている。

5 指導計画（第1学年 13 時間，第2学年 11 時間）

小単元	主な学習活動（第1学年）	主な学習活動（第2学年）	小単元
のこりはいくつ	1 減法が用いられる場面（求残）を理解する。 絵から「のこり」を求める場面を読み取り、ブロック操作をして言葉で表現したり式に表し答えを求めたりする。 へるときのけいさんはどうすればよいだろう。 へるときはひきざんをするとよい。	（7/5） 比べる位の数字に着目して，3 位数の大小を考える。 大きさをくらべるにはどうしたらよいだろう。 位をそろえたり，数の線を使ったりしてくらべたらよい。	（前単元） 1000までの数（全7時間）
	2 減法が用いられる場面（求残）について，立式の根拠を説明する。 立式しその根拠についてブロック操作をしながら友だちに説明する。 どうしてひきざんになるのか，ぶろっくでおはなししよう。	（7/6）（何十）+（何十），（百何十）-（何十）の計算のしかたを考える。 何十のたし算やひき算はどうやるのだろう。 10 のいくつ分で考えるとよい。	
	3 減法が用いられる場面（求残）を絵や図に表し，立式したり差を求めたりする。 えをかいてかんがえよう。 ○をかいてかんがえるとわかりやすい。	（7/7） 既習事項を確かめ，理解を深める。	
	4 減法が用いられる場面（求補）を，求残場面と関連付けて理解する。 しろいぬのかずはどうすればわかるだろう。 ぜんぶのかずからちやいろのいぬのかずをひくとよい。	1 （2 位数）+（2 位数）で，百の位に繰り上げる筆算のしかたを考える。 答えが 100 をこえるひっ算はどうやるのだろう。 くらいごとに分けて計算し，百のくらいに 1 くりあげるとよい。	
0 のひきざん	5 0 という数の意味をもとに，0 の減法の意味や計算のしかたについて理解する。 なにもないときのひきざんはどうするのだろう。 0 をつかうとしきにあらわすことができる。	2 （2 位数）+（2 位数）で，百の位と十の位に繰り上げる筆算のしかたを考える。 2 回くり上がりがあるひっ算はどうやるのだろう。 十のくらいや百のくらいにくり上げるたし算も，これまでと同じようにひっ算でできる。	答えが 3 けたになるたし算
ちがいはいくつ	6 求差の場面も減法の式に表せることを理解する。 くらべるときはなにざんになるのだろう。 くらべるときもひきざんになる。	3 （何百）+（何百）の計算のしかたや，和が 1000 になる計算のしかたを考える。 何百+何百の計算はどうすればよいだろう。 100 を 1 つ分として考えるとこれまでと同じように計算できる。	3 けたのたし算
	7 絵や式から減法の問題を作る。（本時） 8-6 のもんだいをつくるときに，だいじなことはなんだろう。 もんだいをつくるときは，しきのすうじやひきざんになることばをつかうとよい。	4 （3 位数）+（1，2 位数）の筆算のしかたを考える。（本時） 3 けた+1 けた・2 けたのひっさんをするとき，だいじなことはなんだろう。 これまでと同じようにくらいをそろえて書き，くり上りをわすれないようにする。	

	8 「ちがい」をたずねる場面にも、減法を適用できることを理解する。 ちがいをもとめるときはなにざんになるのだろう。 ちがいをもとめるときもひきざんになる。	5 (百何十何) - (2位数) で、百の位から繰り下がりのある減法の計算のしかたを考える。 十の位がひけないひっ算は、どうやるのだろう。 これまでと同じように、となりの百のくらいからくり下げるとよい。	
ひきざんかあど・ひきざんえほん	9 これまでの学習を振り返り、減法の式を自分で考え、ひき算カードを作る。 ひきざんかあどをつくろう。	6 (百何十何) - (2位数) で、2回繰り下がりのある筆算のしかたを考える。 十の位も百の位もひけないひっ算は、どうやるのだろう。 これまでと同じように、となりのくらいからくり下げるとよい(2回くり上がり)。	
	10 ひき算カードを使ったゲームを通して、10以下の数についての減法の計算について技能の習熟を図る。 ひきざんかあどであそぼう。	7 (百何) - (1, 2位数) の筆算のしかたを考える。 十の位からくり下げられないときは、どうやるのだろう。 十のくらいからくり下げることができないときは、百のくらいから十のくらいへ1くり下げて、十のくらいから一のくらいへ1くり下げる。	
	11 日常生活から減法が用いられている場面を見つけ、絵や式に表現し、絵本を作る。 友だちと説明し合い身の回りの様々な場面で減法が用いられていることに気付く。	8 (何百) - (何百) の計算のしかたや、(千) - (何百) の計算のしかたを考える。 何百-何百の計算はどうすればよいだろう。 100 を1つ分として考えるとこれまでと同じように計算できる。	3けたのひき算
単元末	12 既習事項の確かめをする。 10以下の数についての減法の計算をする。 - 減法の場面についての文章題を解く。	9 (3位数) - (1, 2位数) の計算のしかたを考える。 3けた-1けた・2けたのひっさんをするとき、だいじなことはなんだろう。 これまでと同じようにくらいをそろえて書き、くり下がりをおすれないようにする。	
	13 「さんすうをつかって」	10 既習事項の確かめをし、理解を深める。	単元末
	14 単元テスト	11 減法の筆算をするときに間違いそうなところを確認し、計算間違いをしないようにするためにどうすればよいか考える。	算数バトル隊

6 本時（第1学年：7／12，第2学年：4／11）

(1) 目標

（1年）絵や式から数量関係を捉え、具体的場面と関連付け、問題文として表すことができる。

（思考力，判断力，表現力等）

（2年）（3位数）＋（1，2位数）で，正しく筆算に書き表して計算ができる。（知識及び技能）

(2) 指導に当たって

本学年は，ガイド学習の経験が浅い中，少しでも自分たちで授業を展開できるようにするため，事前打ち合わせを全員で行い，「ガイドの手引き」や「ガイドプレート」を活用したりする。また，時期が1学期であるため，学習経験自体が浅い1年生に重点を置いた指導を行う。

自力解決の活動が主体的に進められるように，ずらしを行い，両学年ともに教師と一緒に目標を明確化する。自力解決を図る場面では，個人差が出ることが予想されるため，既習事項の掲示物やヒントカード，自己選択・自己決定できるワークシートを準備し，両学年に対応できる時間を設ける。みんなで解決する場面では，考えの共通点を探しまとめへつなげるようにする。終末では，両学年同時に振り返りを行うことで異学年の交流を図り，本時にどのようなことができるようになったのかを実感できるようにし，下学年が上学年の発表の仕方を学んだりできるようにしたい。

(3) 実際						
教師の手立て	主な学習活動（第1学年）	過程	位置/時間	過程	主な学習活動（第2学年）	教師の手立て
○ 既習事項を確認することで本時の学習の目標を明確化できるようにする。 ○ 1年生は学習の経験が浅く、ガイドもどのように話せばよいか難しい様子であるため「ガイドの手引き」を活用し、フォロワーに伝わるようにはっきりと話すようにする。	1 既習事項を確認し、たし算の問題作りを想起する。 - 絵を見ながら考えよう。 - 式の数字を使うのだったな。 - たし算の言葉「あわせて」「もらいました」等を使おう。 - 最後に質問の文があったな。	既習内容の確認(8)		つかむ・見通す(8)	1 学習課題を確認する。 6 7 8 + 7, 2 3 4 + 5 7 の計算をひっ算でしましょう。 - 前は足される数が2桁だったのに、3桁になっている。 2 学習問題をつかむ。 3 けた + 1 けた・2 けたのひっさんをするときに、だいじなことはなんだろう。 3 解決の見通しを立てる。 - 位をそろえよう。 - 繰り上がりを忘れないようにしよう。 - 答えはどれぐらいになりそうかな。	○ 既習の筆算との違いに気付かせることで、本時の学習の目標を明確化できるようにする。 ○ まだガイド学習の経験が浅くどのように進めるとよいか難しい様子であるため「ガイドの手引き」を活用し少しでも自分たちで授業を展開できるようにする。
○ 数の動きを意識して場面のイメージをもてるように、用意した絵を見せ、「はじめに」と「どうした」を使って問題場面のお話ができるようにする。 ○ これまでに出てきた問題文を思い出すことで、日常生活で減法が用いられる場面に気付くことができるようにする。	2 学習課題を確認する。 えをみて、8 - 6 のしきになるもんだいをつくりましょう。 - 前はたし算の問題を作ったけれど、今度はひき算だ。 3 本時の学習問題を立てる。 8 - 6 のもんだいをつくるときに、だいじなことはなんだろう。 4 解決の見通しを立てる。 - 文章に8と6を書くとよさそうだな。 - ひき算になる言葉を入れよう。 - ねこのお話を考えようかな。	つかむ・見通す(8)		調べる(6)	4 自力解決を図る。 2桁 + 1桁の筆算のときみたいに位を揃えて書いてみよう。 - まず、一の位から計算しよう。 - 筆算をしたら、友達に説明する練習をしよう。	○ 自分の考えをノートに書くようにして、自分の言葉で説明する練習をさせることで、考えを整理できるようにする。
○ 自力解決ができるように既習の場面の絵やひき算になる言葉のカードを準備する。 ○ 式を具体的場面に結び付ける活動を通して、減法の意味の理解を深めるようにする。 ○ 図や矢印も書くようにする。 ○ 減法の意味の理解をより深めるために、他のものや別のひき算の言葉の問題作りができるワークシートを準備し、自己選択・自己決定できるようにする。	5 自力解決を図る。 - ひき算だから、つばめは飛んでいったのだね。 「のこりは」と書いたよ。 - 最後に質問の文を書いたよ。 - 図は○と→で書いたよ。 「白い花」「赤い花」「のこりは」では作れないね。 「食べました」もひき算になる言葉だったな。 「帰りました」「あげました」も使えるな。 「どちらが」で作ってみようかな。	調べる(12)		深める(6)	5 みんなで問題を解決する。 - 友達と同じ考えかな。 7を百の位に書いてしまったよ。 7はばらが7個ということだから一の位に揃えて書こう。 2桁 + 1桁のときみたいに位を揃えよう。 - 間違いは消さずに友達の考えを赤で書こう。	○ 自分たちで進められるように、デジタル教科書で答え合わせをする等活用する。 ○ 位を正しく揃えられなかった場合は、児童のつまずきに合わせて支援するために、位取り表やブロックで再度確認できるようにする。
○ 学習のまとめにつながるようにどの問題文にも共通していること(ひき算になる言葉や式にある数字を順序よく使っているか、求答部分があるか)について考えながら聞くように指示する。	6 考えを交流する。 8を最初に書いているな。 - 自分と同じで「のこりは」と書いてある。 - 友達は「どちらが」を使って作っているな。 「食べました」もひき算だ。 「さる」の問題を作ってみたよ。 「黄色い車」「赤い車」「ちがいは」で作れるのだな。 「白い花」「犬」では作れないね。	深める(10)		調べる(7)	6 2の問題を自力解決する。 - 間違っている理由をノートに書こう。 - 位が揃っていないな。 - 繰り上がりを忘れているな。	○ 自分の考えをノートに書かせ、どのようにすれば間違えずに計算できるかを自分の言葉で説明する練習をさせることで、3桁 + 2桁・1桁の場合でも、既習と同じように計算できることに気付くようにする。
○ めあてを確認し、問題作りのときに大事なことについて作った問題文を振り返りながら児童と一緒にまとめるようにする。 ○ ふり返りのために、「わがとも」を活用する。	7 学習のまとめをする。 しきのすうじを、じゅんじょよくつかう。ひき算になるだいじなことばをつかう。さいごにしつもの文をかく。 8 友達の問題に取り組む。 9 1・2年生一緒に振り返りをする。 - ひき算の問題はひき算になる言葉を使って作れたよ。 - 友達の作った問題を解けて楽しかったよ。	まとめる(7)		深める(7)	7 ペアで問題を解決する。 - 友達と同じ考えかな。 - 友達の説明でよかったところは、赤で書き加えよう。	○ 自分の考えを伝えたり、友達の考えを聞いたりする時間を設定し、赤で加除・修正することで、対話的な学びを充実させる。
				まとめる(11)	8 学習のまとめをする。 同じくらいどうしそろえて書く。くり上がりをわすれないようにする。 9 適用問題に取り組む。 10 1・2年生一緒に振り返りをする。 2けた + 1けたのときみたいに位を揃えたよ。 - 繰り上がりを忘れないようにしよう。	○ めあてを確認し、ノート等で振り返りながら児童と一緒にまとめるようにする。 ○ ふり返りのために、「わがとも」を活用する。

